

麦茶殻、飼料に再利用

キンキサイン 関西・中国牧場へ販売

【姫路】キンキサイン（兵庫県

姫路市、山口祖広社長、079・
2800・3185）は、3年内を
めどに麦茶の自社製造工程で生じ
た茶殻を飼料として販売する。同
社は大手飲料会社にOEM（相手
先ブランド）供給する清涼飲料水
メーカーだが、麦茶殻の飼料を新
規事業で手がける。年内に本社第
二工場（兵庫県神河町）で麦茶の
OEM製造が始まるため、製造で
生じた不要な麦茶殻の有効活用に
もつなげる。



キンキサインは20
11年、緑茶製造で出
た茶殻を乾燥させる装
置一式を、約5000
万円を投じて同工場に
1台導入した。乾燥し
た緑茶殻は種豚用えさ
に混ぜる用途で、配合
飼料会社に販売してい
る。消臭効果が期待で
きると、猫砂の用途と
して茶殻を他社に販売
したこともある。

本社第二工場にある茶
殻乾燥装置

茶殻入りの家畜用飼
料として工場に近い関
西や中国地方の牧場などに提案。
1~2年かけて飼料としての有効
性を確かめる方針だ。同社の工場は千葉と
徳島、兵庫の国内3カ所にある。茶殻乾燥装
置は本社第二工場にのみ導入している。